

企画展示

# 吉岡堅二展

語られてこなかった堅二の家族

父の代から続く創作の系譜



2023年9月23日(土・祝) — 11月5日(日)

開館時間 午前9時 — 午後5時

休館日 月曜日(10月9日は開館)、9月26日(火)、10月10日(火)

会場 東大和市立郷土博物館 1階企画展示室

観覧無料

〈交通のご案内〉

■西武拝島線 東大和市駅より

イオンモール行(西武バス)で「八幡神社」下車徒歩2分または、

青梅車庫行(都営バス)で「八幡神社前」下車徒歩2分、東村山駅行(西武バス)で「奈良橋」下車徒歩7分

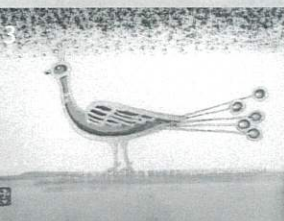
■ちよこバス(市内循環バス)で

多摩モノレール 上北台駅より外廻り乗車または、

西武多摩湖線武蔵大和駅より内廻り乗車「郷土博物館入口」下車徒歩2分(本数が少ないのでご注意ください)



東大和市立郷土博物館 東京都東大和市奈良橋 1-260-2  
TEL 042-567-4800 FAX 042-567-4166



企画展示

# 吉岡堅二展

2023年

9月23日(土) - 11月5日(日)

東大和ゆかりの日本画家・吉岡堅二。生前、自らの親族について語ることはほとんどありませんでした。

しかし、堅二の父・華堂は日本画家、母・常子は工芸作家であり、吉岡家には芸術が生活の一部として当たり前のようにそこにありました。華堂と常子の子や孫たちにも、創作の遺伝子が受け継がれている様子を作品とともにご覧ください。

## ■ 堅二が描く家族の姿

堅二が前衛日本画家といわれるきっかけになった作品の一つに、妻をモデルにした《椅子による女》があげられます。昭和初期に、自身の妻や息子、姉妹をモデルにし、従来の日本画に西洋のエッセンスを取り入れた新しい日本画の制作を試みました。

## ■ 父母、姉妹の創作

父・華堂、母・常子の作品を中心に、60歳を過ぎてから日本画を学び始めた姉・美津子、岡田三郎助に油絵を師事した末妹・正江の作品もあわせてご紹介します。

## ■ 京都の吉岡

末弟の常雄は、華堂の生家の染物屋を継ぎ、古代染織の研究に励みました。常雄の長男・幸雄は「紫紅社」を設立し、出版や広告の業界で活躍していましたが、その後家業の五代目を継ぎ、植物染めによる日本の伝統色の再現に取り組みました。

## ■ 一樹会

創作の遺伝子を受け継いだ常子の娘や孫たちは、自分達のルーツを常子から始まる一本の樹に見立て、「一樹会」として作品発表の場を設けました。

## 関連イベント

### 展示解説

日時：10月1日(日) 午後1時30分～(30分程度)

会場：郷土博物館1階企画展示室

参加費無料、事前予約不要

博物館の職員が吉岡堅二の家族や作品について解説します。

### ワークショップ 和綴じ画帳作りに挑戦!

日時：10月22日(日) 午前10時～(1時間程度)

会場：郷土博物館1階会議室

定員：10人(事前申込制 ☎042-567-4800)

参加費：無料(材料は博物館で用意します)

和紙を使ってオリジナルのミニ画帳を作ってみましょう。

### 旧吉岡家住宅の公開

日時：10月27日(金)～10月29日(日) 午前10時～午後4時

会場：東大和市清水3丁目779番地

国の登録有形文化財「旧吉岡家住宅」として保存されている吉岡堅二の旧邸宅を公開します。生前使用していたまま残されているアトリエ、武蔵野の伝統的な農家の家屋を改築した主屋、長屋門や、堅二の作品もご覧いただけます。



表  
《草に憩う三人の少女》/吉岡堅二/  
紙本着彩

- 裏
1. 吉岡堅二
  2. 《椅子による女》/吉岡堅二/紙本着彩
  3. 《孔雀》/吉岡常雄/紙本着彩
  4. 吉岡常雄
  5. 吉岡華堂
  6. 《枇杷》/吉岡華堂/絹本着彩
  7. 吉岡常子
  8. 《納涼》/吉岡常子/押絵